

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
大阪ダンス&アクターズ専門学校	平成17年10月28日	吉村 節子	〒550-0013 大阪市西区新町1-18-10 (電話) 06-6536-7273																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人コミュニケーションアート	昭和63年3月31日	近藤 雅臣	〒550-0013 大阪市西区新町1-18-22 (電話) 06-6536-7161																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
文化・教養	文化・教養専門課程	ダンス&アクターズ科(昼間Ⅱ部)	平成6年文部科学省告示第84号	-																											
学科の目的	本校は、教育基本法に則り、学校教育法に従い、文化・教養専門課程を設置し、そのもとでダンサーや俳優、声優、スタイリストなど、エンターテインメント業界に従事しようとする者に、必要な知識や技能、及び人間力を身に付け、社会に貢献できる人材を育成する。																														
認定年月日	2014/3/31																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	1880	180	1700	0	0	0																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
240人	100人	0人	2人	3人	5人																										
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学科試験、もしくは実技試験点数による。																										
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:8月5日～8月16日 ■冬季:12月22日～1月5日 ■学年末:3月1日～3月31日		卒業・進級条件		出席率と学科試験点数により、進級・卒業に必要な単位を取得していること。																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任制度、三者面談、SSC(学生相談センター)		課外活動		■課外活動の種類 同好会・サークル活動など  ■サークル活動: 有																										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) テーマパーク、声優事務所など ■就職指導内容 就職対策の授業、履歴書・プロフィールシートの作成、校内での企業説明会「合同企業説明会・新人発掘プレゼンテーション」など ■卒業者数 68 人 ■就職希望者数 26 人 ■就職者数 26 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 38.2 % ■その他 ・進学者数:3人 ダンス、俳優、声優等のプロダクション所属希望の卒業生は卒業後もデビュー活動中として一時的な仕事に就き活動を行っている。活動については卒業後の支援を行っている。  (令和 元 年度卒業者に関する 令和2年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
-	-	-	-																												
-	-	-	-																												
-	-	-	-																												
-	-	-	-																												
-	-	-	-																												
中途退学の現状	■中途退学者 10 名 平成31年4月1日時点において、在学者148名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者138名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学業不振、学校生活不適應、進路変更、病気ケガ、経済的理由、家庭の事情など ■中退防止・中退者支援のための取組 欠席者の早期徹底フォロー、学費分割、延納制度、保護者面談、三者面談、補習など		■中退率 6.8 %																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 保護者・兄弟姉妹学費免除制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																														
当該学科のホームページURL	http://www.da-osaka.ac.jp/																														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
業界との連携について従来、学科の養成目的実現に向け、学校の教職員と業界で活躍する兼任教員(非常勤講師)が講師授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催しています。教育課程編成委員会においては非常勤講師以外の業界関係者からの意見をいただき、より詳細に教育内容に反映させることを目的とします。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

自己点検・自己評価や教育課程編成委員会、各種研修などにおいて、業界・団体の方の意見や動向などを考慮している。  
また、授業アンケートや講師会、講師研修会なども実施し、授業内容の見直しや授業方法の改善・工夫等を行っていく。  
教育課程は教育課程編成委員会からのご意見も参考に、教務部にて原案を作成の上、学校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
吉田 健一	公益社団法人 日本ストリートダンススタジオ協会	令和2年4月1日～令和2年3月31日	①
上田 泰三	吉本興業株式会社	令和2年4月1日～令和2年3月31日	③
福田 和美	株式会社ブルースブラッシュ	令和2年4月1日～令和2年3月31日	③
吉村 節子	大阪ダンス&アクターズ専門学校	令和2年4月1日～令和2年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年6月29日 15:15～16:15

第2回 令和3年2月12日 16:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【意見①】アーティスト活動にとって、これまでの歌やダンスのクオリティを上げるだけでなく、NET上の魅せ方(編集や加工など)のスキルも身に付けることが必要。

【意見②】インターネット配信の環境を活用して、日本のみならず海外への発信を想定しての活動を取り入れることも学生さん達にも必要。日本だけでなく、マーケットの違いを認識してコンテンツ発信をしていく経験が、重要。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

3つの教育理念（実学教育・人間教育・国際教育）を掲げ、業界が求める人材を業界と共に育成する（産学連携教育システム）という考えのもと、業界の方から直接、学生が目指す職業に必要な知識・技術を指導している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学外実習、インターンシップなどの実施。

・プレゼンテーション…学内オーディションに先立ち全ての学生が企業のアドバイスのもとプレゼンテーションシートの作成を行う。（実施期間令和2年4月1日～9月30日 企業評価日令和2年9月12日 学校評価日令和2年9月22日）

・ダンスパフォーマンス…JAZZ、ストリート、バレエなどのジャンルを基軸にダンスの基礎を身に付けパフォーマンス力を養い、企業の課題やアドバイスのもと演目のコンセプトにそったパフォーマンスを行う。（実施期間令和2年4月1日～令和3年2月26日 企業評価日令和3年2月28日 学校評価日令和3年3月1日）

・アクティング1…演技のための所作、発声、表現力を養い、企業課題に基づいた演劇公演を行う。（実施期間令和2年4月1日～令和3年2月26日 企業評価日令和3年2月28日 学校評価日令和3年3月1日）

・演出・振り付け…連携企業よりの課題に基づきパフォーマンスを行い、演出振り付けにおけるスキルとコミュニケーション力を養う。オリエンテーションの実施、制作スケジュールや技術指導、プレゼンテーションの仕方等のアドバイスやチェックを行う。（実施期間令和2年4月1日～令和3年2月26日 企業評価日令和3年2月28日 学校評価日令和3年3月1日）

・卒業制作…各自の課題に基づきパフォーマンス制作を個人または共同作業で活動し、学外実習にてパフォーマンスを行い企業より評価を受ける。制作の過程でスケジュール、パフォーマンス準備や資料作成など、技術力と企業とのやりとりを通じてコミュニケーション力を養う。（実施期間令和2年4月1日～令和3年2月26日 企業評価日令和3年2月28日 学校評価日令和3年3月1日）

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
プレゼンテーション	オーディション対策等に先だって、体づくり、個性づくりを意識しながら基礎を徹底的に学びます。	有限会社オフィス環、オフィスシャワー、株式会社オフィスクレッシェンド、株式会社東通企画
ダンスパフォーマンス1	ダンスを動作表現、ヴィジュアル表現、さらに音楽・リズムと融合させた表現とのとらえ方から、そのパフォーマンスを高める様々な要素を学び、訓練します。	株式会社オンユウ、株式会社ブルースブラッシュ
アクティング1	演技のための所作、発声、表現力を身につけるため、様々な角度から演習し、その基礎力を身につけます。	株式会社ビッグワンウェスト
演出・振付け	広い意味での「パフォーマンス」を効果的で意図的に構成し、演出し、表現できるように伝達するスキルを、コミュニケーションという視点も含めて学びます。	エイベックス・マネジメント株式会社
卒業制作	卒業年度の総括として各自の芯を見合った課題に対して個人または共同で制作活動を行い審査を受けます。	SYNCHRONICITY、株式会社リコモーション、株式会社オンユウ、株式会社東通企画、株式会社ビーフィック、株式会社ベースメント

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記  
 学園の定める教員研修規定において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めています。①キャリア教育の視点、②ひとり人を見て行く視点  
 さらに、専任教員と兼任教員で組織する講師会議においてこの方針を共有し、授業内容のチェック、教育技法改善に向けた研修を実施している。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「足場組み立て講習会」(連携企業等: 関西舞台テレビテクノ&アート協同組合)

期間: 令和2年9月14日(月) 対象: 参加教員2名 非常勤講師3名

法制度改正により、高所作業においては講習が義務化されている。ダンスや演技の分野業界での実習時に十分な知識と情報を持って参加できる必要性があるため職員、非常勤講師が参加。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「FDミクロレベル研修」(連携企業等: 滋慶教育科学研究所)

期間: 令和2年5月18日(月) 対象: 職員

内容: 中途退学者防止に向けた「学生ひとり人」に対する対応案の企画立案・実施・評価というPDCAサイクルを展開することを年間の教育活動の中心に据え、ファカルティ・ディベロップメント活動を推進する専任教員に対し年間を通じた授業内容に反映されるよう研修を行う。

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「フルハーネス講習会」(連携企業等: 関西舞台テレビテクノ&アート協同組合)

期間: 令和2年9月15日(火) 対象: 参加教員2名 非常勤講師3名

法制度改正により、高所作業においては講習が義務化されている。ダンスや演技の分野業界での実習時に十分な知識と情報を持って参加できる必要性があるため職員、非常勤講師が参加。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「FDミクロレベル・フォローアップ研修」(連携企業等: 滋慶教育科学研究所)

期間: 令和2年11月5日(木) 対象: 職員

内容: ファカルティ・ディベロップメント研修などを通じて教育の質の向上を行うため、公開授業などを通じて振り返りなどを行っている。専門分野の授業を行う講師に対しての講師研修会を実施し教育の理念の共有を行っている。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検自己評価を行い、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。(教育理念・目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守等)

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	●理念・目的・育成人材像は定められているか ●学校の特色は何か
(2) 学校運営	●運営方針は定められているか ●事業計画は定められているか ●運
(3) 教育活動	●各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人
(4) 学修成果	●就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られ
(5) 学生支援	●就職に関する体制は整備されているか ●学生相談に関する体制は
(6) 教育環境	●施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されてい
(7) 学生の受入れ募集	●学生募集活動は、適正に行われているか ●学生募集活動におい
(8) 財務	●中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ●予算・収支
(9) 法令等の遵守	●法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ●個人情
(10) 社会貢献・地域貢献	●学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか ●学生
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員よりのそれぞれの項目に対して御意見をいただき、学内で改善に取り組む。

【意見①保護者代表より 保護者会実施について】

現在、進級年度での保護者会を定例で行っているが、卒業年度の学生を対象とした保護者会を定例にしても良いのではないかとのご意見をいただく。これに対して希望者を募り保護者会を開催する方向で改善委取り組む。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
砂田 明日香	卒業生代表	令和2年4月1日～令和2年3月31日	卒業生代表
萩原 佳代	保護者代表	令和2年4月1日～令和2年3月31日	保護者代表
田中 茂雄	四條畷学園高等学校	令和2年4月1日～令和2年3月31日	高等学校関係者
白國 哲司	総務省 行政相談委員	令和2年4月1日～令和2年3月31日	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: [https://www.da-osaka.ac.jp/school/public\\_info/index.html](https://www.da-osaka.ac.jp/school/public_info/index.html)

公表時期: 令和2年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者に対して学校運営・教育活動等の理解を深めていただくとともに情報公開を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	●建学の理念、4つの信頼●校長名、所在地、連絡先●沿革●その他の諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	●入学者に関する受け入れ方針●卒業・進級判定基準●卒業と同時に取得する称号●主な就職先
(3)教職員	●教職員数●教員の業績
(4)キャリア教育・実践的職業教育	●キャリア教育への取り組み状況●実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	●校舎設備紹介
(6)学生の生活支援	●健康管理●中途退学防止への取り組み
(7)学生納付金・修学支援	●学費一覧、諸費用について●奨学金サポート
(8)学校の財務	●財務資料
(9)学校評価	●学校関係者評価委員会
(10)国際連携の状況	●留学生の受け入れ等
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法  
(ホームページ)

URL: [https://www.da-osaka.ac.jp/school/public\\_info/index.html](https://www.da-osaka.ac.jp/school/public_info/index.html)

## 授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	〇		英会話	国際性を高めることを目的とした学習の一環として、日常英会話、学生生活やレッスン・リハーサルの中で必要な英語表現をネイティブ・スピーカーのもとで授業として、あるいは実際に現地で学びます。	1通	60	4		〇		〇	〇		〇		
2	〇		プレゼンテーション	オーディション対策等に先だって、体づくり、個性づくりを意識しながら基礎を徹底的に学びます。	1通	60	4		〇	△		〇	〇		〇	〇
3	〇		演劇史	それぞれの分野の表現様式のルーツや時間軸による変遷を学ぶとともに、様々な視点からそれぞれの表現・技能の根源的な原理にまで及ぶことで職業意識を高めます。	1前	60	4		〇			〇			〇	〇
4	〇		著作権	現代におけるビジネス側面の問題解決に必要な知識やコミュニケーションスキルを、コンピュータをツールとして学びます。	2通	60	4	〇				〇		〇		
5	〇		ショービジネス	ステージパフォーマンスのビジネス・バリューを高める様々な視点や技術を、実際の制作を通じて学びます。	2通	60	4		〇	△		〇	〇		〇	〇
6	〇		音楽理論	音の特性を礎に、歴史と文化の中で編み出された楽典の基礎を学び、それぞれの創作過程において応用する原理まで学びます。	1通	60	4		〇			〇		〇		
7	〇		舞台美術・照明	パフォーマンスの背景としてステージに欠かせない要素を様々な視点から考察、演習し、実際のステージでの試みも行います。	1通	60	4		〇			〇	〇		〇	〇
8	〇		イヤートレーニング1	様々な音楽様式の聴取と、その経験によって得られた理論を学び、記譜された音楽に対する順応力を高めます。	1通	60	4	〇				〇		〇		
9	〇		イヤートレーニング2	イヤートレーニング1の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	60	4	〇				〇		〇		
10	〇		ヴォイストレーニング1	パフォーマンスの中の発声を用いた表現にフォーカスし、その基礎を学ぶとともに、ヴァジュアルな要素との相乗的な効果も意識した訓練を行います。	1通	60	4		〇			〇			〇	〇
11	〇		ヴォイストレーニング2	ヴォイストレーニング1の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	60	4		〇			〇			〇	〇
12	〇		ステージパフォーマンス	ステージパフォーマンスの効果的な構成、演出、そして実際の制作のプロセスを実習を通じて学びます。	2通	120	8		〇	△		〇	〇		〇	〇

13	○		ダンスパフォーマンス1	ダンスを動作表現、ヴィジュアル表現、さらに音楽・リズムと融合させた表現とのとらえ方から、そのパフォーマンスを高める様々な要素を学び、訓練します。	1通	120	8		○	○			○	○	
14	○		ダンスパフォーマンス2	ダンスパフォーマンス1の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	120	8		○	○	○		○	○	
15	○		アクティング1	演技のための所作、発声、表現力を身につけるため、様々な角度から演習し、その基礎力を身につけます。	1通	60	4		○	○			○	○	
16	○		アクティング2	アクティング1の内容をさらに発展させ、実際の現場に対応できる技術と経験を身につけます。	2通	60	4		○	○	○		○	○	
17	○		アテレコ・アフレコ	ビジュアル素材に台詞等声による表現を当てるにあたっての、基礎から自由で個性的な表現ができる原理まで、様々な演習を色々な角度から行います。	1通	60	4		○	○			○	○	
18	○		演出・振付け	広い意味での「パフォーマンス」を効果的で意図的に構成し、演出し、表現できるように伝達するスキルを、コミュニケーションという視点も含めて学びます。	2通	60	4		○	△	○	○		○	○
19	○		オーディション対策1	特にオーディションの場でより良いプレゼンテーションができるため、企画、構成、マナー、見せ方、様々な視点の演習から学びます。	1通	60	4		○		○		○		
20	○		オーディション対策2	オーディション対策1の内容をさらに発展させ、個人の基礎技能の訓練も含めて、学びます。	2通	120	8		○		○		○		
21	○		進級制作	1年間の総括として、各自の進路に見合った課題に対して、個人又は共同で制作活動を行い、審査を受けます。	1通	220	14		○	△		○		○	○
22	○		卒業制作	卒業年度の総括として、各自の進路に見合った課題に対して、個人又は共同で制作活動を行い、審査を受けます。	2通	220	14		○	△		○		○	○
合計					22科目			1880単位時間(124単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
すること。履修方法は履修アンケートを記入し、個別カウンセリングによって方向		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。